

第15回

中学生訪中親善使節団報告書

平成19年 3月24日(土)～3月29日(木) 6日間

上海・南昌・北京



財団
法人

Takamatsu International Association
高松市国際交流協会

目 次

I 団 員 名 簿	1
II 日 程	2
III 使節団の活動状況	3
IV 感 想 文	9

第15回中学生訪中親善使節団団員名簿

団 長	山 下 晴 久	高松市教育委員会教育文化研究所副所長
同行保健師	川 尻 幸 代	高松市健康福祉部保健所保健センター保健師長
同行職員	何 燕 萍	財団法人高松市国際交流協会事務局員
団 員	細 田 祐 平	香川県立高松北中学校1年
”	木 村 花菜子	香川大学教育学部附属高松中学校1年
”	辻 暁 里	香川大学教育学部附属高松中学校1年
”	小 野 翔 子	香川大学教育学部附属高松中学校2年
”	秋 友 祥 子	香川大学教育学部附属高松中学校2年
”	竹 川 美 香	高松市立鶴尾中学校1年
”	佐 藤 うらら	高松市立牟礼中学校1年
”	水 野 莉 沙	高松市立協和中学校2年
”	内 藤 謙史郎	高松市立国分寺中学校1年
”	轟 綾 乃	高松市立太田中学校2年
”	白 井 希 依	高松市立香南中学校2年
”	田 口 梨 栄	高松市立香川第一中学校2年
”	白 井 宏 明	高松市立龍雲中学校1年
”	横 山 彰	高松市立紫雲中学校2年
”	吉 澤 福 生	高松市立玉藻中学校2年

日 程

月 日 (曜日)		主 な 行 事		宿 泊
1	3月24日(土)	7:15 7:45 11:15 22:15 23:35	アイパル正面玄関集合 高松発(専用バス) 関西空港着 関西空港発(中国国際航空CA922) 上海浦東国際空港着	(上 海 泊) 上海賓館 上海市静安区ウルムチ北路505号 TEL:021-62480088 FAX:021-62484056
2	3月25日(日)	18:25	上海動物園、豫園、上海博物館、 黄浦江、新天地見学 上海南駅発夜行列車K287で南昌へ	(車 中 泊)
3	3月26日(月)	6:50 7:30 9:00 10:30 11:50 12:30 14:15 15:40 17:00 19:30	南昌駅着 朝食 天香園見学 江南三大名楼の一つである滕王閣へ 南昌市人民政府を表敬訪問 歓迎昼食会 八大山人記念館見学へ 象湖へ 友好会館 ホームステイ(ホストファミリー出迎え)	(南 昌 泊) ホームステイ ※引率者は日中友好会館 南昌市湖濱南路28号
4	3月27日(火)	8:30 9:00 9:30 12:00 14:00 17:00 18:00 20:00	日中友好会館集合 南昌市八一中学校へ出発 南昌市八一中学校にて交流 昼食会 紅谷灘秋水広場、八一広場見学 ホームステイ(ホストファミリー出迎え) 夕食(団長等) ホームステイ先訪問(団長等)	(南 昌 泊) ホームステイ ※引率者は日中友好会館
5	3月28日(水)	6:15 6:25 7:35	日中友好会館集合 南昌空港へ出発 南昌空港発(MU5173) 北京空港着 北京市内見学 万里の長城、故宮博物館、天安門広場等	(北 京 泊) 中苑賓館 北京市西直門外高梁橋斜街18号 TEL:010-51568888 FAX:010-51566789
6	3月29日(木)	09:20 13:00 14:00 17:30	ホテル出発 北京空港着 北京空港発(中国国際航空 CA927) 関西国際空港着 関西国際空港発(専用バス) 高松着(アイパル正面玄関前にて解散)	

※ 時刻は現地時間

使節団の活動状況

3月24日（土曜日） 使節団第1日

アイパル香川を出発 保護者の方や学校の先生方の見送りを受けて旅立ちました。秋友さんの代表あいさつは素敵でした。期待の出発でした。関西空港について、あのアナウンスを聞くまでは……（CA922便は、天候により出発予定時間が設定できません。）そうです、私たちの乗るべき午後1時15分発の飛行機は、なぜか到着していないのです。親善使節団前代未聞。関西国際空港を飛び立てたのは、夜の10時15分でした。上海空港到着は、人もまばらになった日本時間の翌朝0時35分でした。さすがに若き使節団員も少しくたびれた様子でした。お疲れさま。



出発式

3月25日（日曜日） 使節団第2日

● 上海市 上海動物園 豫園 上海博物館

起床時間を気にしつつ目覚めたのは、モーニングコールにせかされての現地時間7時。時差1時間があるものの、少々寝不足気味。でも、団員達はまだまだ元気である。ホテルの豪華なモーニングバイキングを平らげています。意外に元気そうで安心の朝一番でした。日本人も多そうです。さすが上海のホテルです。多国籍な感じです。

南昌市人民政府外事弁公室職員の顔さんも、上海でのガイドの蔣さんも同行し、バスは大小パンダの待つ上海動物園へ。さらに豫園を回



上海

り、上海博物館へ。春霞のなかに林立する高層ビルを見ながら、ときおりゴイングマイウェイな車・オートバイの動きとクラクションにドキドキしながらの移動。建築物、人、躍進する中国の勢いを感じながらの旅ですが、文化や考え方の違いの一端を身を持って感じる最初の日になりました。夕方、南昌市への移動のため、新装の上海南駅へ（円形の非常にしゃれた駅舎です）、夜行（寝台）列車の旅が始まる。これも団員にとっては初めての体験だろう。およそ12時間の旅である。片側2段のベッド。4人一組の個室。後で聞くと、この狭い中で枕投げもしたらしい……。やれやれ。



寝台列車にて

朝6時、新しくなった南昌駅に到着。狭い寝台列車の中ではゆっくり眠れず、何回か目が覚めた。少々眠い朝となった。南昌市外事弁公室の張知明主任による出迎え。明け方までは大雨だったようで、小降りになった空を見上げながら、みなさんが良い天候をつれてきてくれたと満面の笑顔で迎えてくれた。



市長と乾杯！

午前中は、まず天香園の見学。ガイドの朱さんと一緒に、雨の中ではあったが、庭を見学した。予定が変わって、昼前に市長表敬訪問。王詠常務副市長先生との公式行事を実施。市が用意してくれたホテルの会場は、テレビカメラも入ってびっくり。緊張の時間でした。王副市長からは、歓迎のことばと、発展する南昌市の説明。すばらしい親善交流となるようにとのお言葉とプレゼントをいただいた。その後、歓迎の昼食会。すばらしい中華料理の数々。しばしの懇談にも緊張で、すばらしい食事の味もあまりわからず、今になって思うと少し残念だった。

食事の後は、滕王閣へ。南昌市で最も有名な建築物である。高松市にはレプリカ（在：高松市民文化センター玄関入って右側のところ）が送られている。中に入り、最上階からの展望は、雲が切れていればさぞかしと思われるものでした。中でのアトラクション。しばし中国古来の音楽にふれることもできた。

今晚から、団員は2日間のホームステイ。期待もあり、不安もありといった面持ち。ホストファミリーと出会う日中友好会館（高松市も出資して建設された施設、湖の周りの木立に囲まれた静かな場所にある。）に近づくにつれ、自己紹介の練習を始める者、どうしよう・・・と不安がる者も。

ロビーで待つ間にも、ファミリーや学校の校長先生（八一中学）や関係者が集まる。午前中の表敬訪問の様子が地元テレビニュースで放映されるとの話を聞き、ニュースをカメラに納めた後、それぞれのファミリー宅へ分かれていく。「〇〇くん・△△さんがんばってー！」の声もあがる。笑顔を作りながらも引きつっているようにも見える。（本当に、楽しんできてね！）団員のすばらしい親善交流を願って一日を終える。



雨の中の滕王閣



対面式

本日の午前中は、八一中学校の訪問。日中友好会館に集合してくると、言葉がなかなか通じなくて・・・、いろんなことをしてくれた、こんな家庭だ



“歓迎歓迎熱烈歓迎”と八一中学の子供達



交流会のようす

食事会の後、市役所等がある対岸へ。黒猫・白猫が出迎える「八一大橋」を渡って移動。これも新しくできた名所の噴水公園へ！しばし音楽と水の競演を楽しむ。

この後、旧市街地へ戻ってスーパーマーケットでショッピング。平日の午後に何でこんなに人が多いの？と感じつつ、中国の人たちの好奇の目にさらされながら、お菓子やおみやげを購入し、その後「八一記念碑」が建つ「八一広場」へ。有名な「八一蜂起」の祈念広場である。中国共産党が、ここ南昌で初めて自前の軍隊を持った記念すべき日、八月一日からきているようだ。

本日は、ホストファミリーとの最後（2日目）の夕食とホームステイである。交流会館で家族と再会の後それぞれの家庭へ！交流会の後ということもあり、にこやかに打ち解けた感じでそれぞれの家庭へ出発する。昨日とは雰囲気はずいぶん違うが、今日もまたそれぞれにドラマがあるものと思う。体調を崩している者がいないことがなによりである。

引率の3名は、張主任さんの歓迎夕食会へ。ライトアップされた滕王閣の横にあるレストランで豪

て・・・、いろんなことをしてくれた、こんな家庭だった等の報告があり、ホストファミリーの子ども達も集まってしばしの懇談・写真撮影の後、バスで八一中学校へ。学校に着くと正門の上には、熱烈歓迎の横断幕。正門から両側に並んだ子ども達の声のをそらえての歓迎を受けその中を照れながら歩く。高等部の周校長先生の案内で校内の見学。控え室で学校紹介と歓迎の挨拶。答礼の挨拶を送るとまたもやプレゼントをいただく。その後、交流会会場へ出向く。中は熱気に包まれている。さまざまなすばらしい出しものに、我々が研修で練習した歌（さくらさくら、千の風になって）やゲームを披露。和気あいあい。また大いに盛り上がって交流は進んだ。横山君の少林寺拳法の演技も含め相互の出し物の最後は、“一合まいた”。これには、八一中学校の先生や生徒が何人も飛び入りでお祭り状態。楽しく過ごすことができた。

この日の昼食は、周校長先生の準備してくださった歓迎の昼食会。少しピリ辛の南昌市の郷土料理をはじめ、ウサギやカメなどの珍しい素材の料理も堪能。校長先生からは、名物の焼酎（故周恩来首相が愛飲したらしい）が振る舞われる（団長）。



噴水公園 団巻！

華な夕食。ここでもニュースで「八一中学校」での交流会の様子が流れる。

夕食会の後、3軒のホームステイ先を訪ねる。それぞれに歓待されているようだ。いい雰囲気でも過ごしていた。これなら安心！あるホストファミリーからは、逆に日本への訪問が可能であれば是非参加させたいというような話もあった。日本以上に、ほんとうに子どもの教育に力を入れていることを感じた。

3月28日（水曜日） 使節団第5日 ● 北京へ移動

早朝、日中友好会館ロビーにホームステイ先から帰ってくる。地元のテレビ局も来ている。名残惜しそうに写真に収まったり、プレゼントをもらったりしている。さすがに別れのつらさ寂しさからか泣き出す子も。いい出逢いの思い出と避けられない別れが交錯する。別れてからも交流が続くようにと祈るばかりである。

ホストファミリーに見送られて、南昌空港（かなり郊外にある）へ。最後の目的地、北京への移動である。

昼前、2時間ほどで北京首都空港に到着。オリンピックのために拡張工事が進んでいるらしい。北京首都空港は広大。黄砂等のためか、かなりほこりっぽい印象を受けたが、広大な平原は、中国の大きさを実感する景色であった。建設と同時に、防風・防砂のための植林が現代中国の風景のように思えた。昼食を挟んで、高速道路を一路「万里の長城」へ。中国観光として必ず訪れる長大な建造物である。さすがの観光地！多国籍の人たちの、上へ下への行進である（もちろん日本語もいっぱい聞こえる）。第4の狼煙台までがんばる。わずか1時間の見学であったが、中国の一大建造物と、歴史と自然のすごさに感動の時をした。

「万里の長城」から北京市内中心部へ移動。北京でのもう一つの見学地「故宮」「天安門広場」である。入場時間締め切りぎりぎりの3時30分頃に裏門から入る。ここでも中国皇帝（清王朝他）の強大な権力に唖然とすると共に、これを造り上げた中国の歴史にただただ唖然！さらに、40万人が集合できる（高松の人口並）天安門広場。現代の中国につながる勢いを感じた。ガイドの黄さん、顔さんの誇らしげなこと！

このあと中国最後の夕食。北京といえば北京ダック！人気の店での夕食は、訪中最後の晩餐ということで、大いに盛り上がる。みんなよくしゃべり、よく食べる。今回の訪問での裏話も含めて18名の相互交流も十分に果たせたように思う。この相互交流は、ホテルでも遅くまで続いたようである。



「ハイポーズ」 故宮にて



天安門広場

3月29日（木曜日） 使節団第6日

● 帰途（北京～関西国際空港へ）

5時20分起床の6時20分ロビー集合。最終日も朝早いスケジュール。今日は、もう帰るだけ。

北京首都空港での出国手続きも落ち着いたもの。昨夜はしゃぎすぎた団員の寝入る姿も時々見られるが、空路の2時間半、バスでの3時間半は、思い出話やなぜかそれぞれの学校や先生方についての情報交換。2年生（新3年生）にとっては、新年度のことも気になるようだ。

いよいよ、家族の待つアイパル香川に到着。簡単な解団式。お互い別れを惜しみ、去りがたく、別れがたい様子が垣間見えた。

この高松市国際交流協会による訪中親善使節団、多くの人たちに支えられていることを実感することができた。代表生徒の挨拶にも、それがしっかりとされたためられていた。

感 想 文

第15回中学生訪中親善使節団18名の旅



高松市教育委員会 教育文化研究所副所長

山下 晴久

平成19年3月24日～29日。この6日間は忘れられない6日間になることだろう。修学旅行等で生徒を引率したことはあっても、海外しかも団長。さらに年度末のこの時期、不安もあり二の足を踏んだのは事実である。ただ、子ども達との研修会への参加の中で、親善交流に期待を寄せている子ども達に触れるに従い、自分もこの機会を大切にすべきと感じたのがこの使節団との出会いであった。

躍進する中国。人も環境も大きく変化する中国とは、悠久の歴史を持つ中国の文化とは。子ども達と同じ目線で、実際に肌で感じ体験する旅にしたいとの思いが出発が近づくにつれてつづいた。市内12校から集まった15名の1・2年生は、それぞれの思いを持ち、個性あふれる生徒達であった。笑いの絶えない明るさ一杯のAさん。恥ずかしがり屋でありながら、好奇心旺盛なBくん。何もかも精一杯たくさんのことを吸収しようとするCさん。心暖かいDくん……。しばらく子ども達と接する機会のなかった自分にとって、子ども達との接触は新鮮でもあり、元気づけられるものであった。

さらに、この使節団を支えていただいた中国の人たちもまた、素晴らしい方ばかりで、景色や文化の交流と共に、通常の旅では得られない人との出会いを感じることができたのも親善交流ならではの感じた。

子ども達を愛情一杯に出迎えてくれた南昌市ホストファミリーの方々。たった2日間の短い時間での交流にも係わらず、涙を流して別れを惜しんでくれた。役割とはいえそれ以上の気遣いと配慮をいただいた南昌市外事弁公室のスタッフのみなさん。特に張主任さんは大変お忙しい中、自分が高松での行政研修で高松のみなさんにお世話になったものをお返しするのだとことあるごとに我々に接してくれた。また、若くまじめで優秀な顔さん。中学生の使節団と触れるのは初めてということであったが、この初めての体験を「一期一会」ということばで締めくくってくれた。交流会を実施した八一中学校の関係の人たち。本当に熱烈歓迎で、生徒のみなさんのエネルギーは、そのまま中国のエネルギーなのだろうと感じた交流会になった。

生徒達にとって、単なる海外旅行では味わえない一つ一つの経験をそれぞれの夢や目標につなげて言ってくれるものと信じたい。

初日飛行機の出発便の遅れというアクシデントを差し引いても、この6日間の体験がしっかりと18名の心に残ったものと思う。

最後に、今回の貴重な体験を与えていただいた高松市国際交流協会と中国6日間の運命共同体を結成した団員のみなさんに、心から感謝したいと思う。

緑豊かな南昌市。緑鮮やかな柳の青葉の下、湖岸の遊歩道をさわやかな鳥の声と共にウォーキングする姿を夢見ながら

……。



南昌市副市長表敬訪問

第15回中学生訪中親善使節団に参加して



高松市保健センター 保健師

川尻 幸代

中学生訪中親善使節団引率のお話を頂いた時は、「とうとう回ってきたか。」という、少し冷めた諦めの思いで受け止めていました。最初の思いとは、反対に、事前研修を重ね、日程が迫るにつれて、不安、プレッシャーがジワジワと押し寄せて来ていたそんなある日、職場の先輩が、「大丈夫！子ども達の母親の気持ちでいけばいいんじゃない！」のアドバイスで、そうそう主役は、子ども達なのだから、ちょうど私自身にも、同年齢の思春期で反抗期真っ只中の娘がいるので、子ども達と同じ目線で、母親の立場でいようと思うことができ、とても気が楽になりました。

そんな夢と希望と不安の中、出発しましたが、この旅の珍道中の始まりは、早くも関西空港に着いた途端でした。北京から大連経由で関西空港に着く飛行機で上海に行く予定が、大連が濃霧で北京から飛び立てず、いつ関空に着くか、いつ出発するかわからない状況だったのです。最初はハイテンションの子ども達も先がみえない不安と疲れで表情も徐々に曇っていき、予定より9時間遅れで飛び立てた時は、皆の疲れはピークに達していました。

何はともあれ、無事中国に到着し、日程をこなす中、慣れない気候、食事、習慣、生活リズムに、頭痛、腹痛、めまい、関節痛、鼻血、発熱と、身体の不調を訴えたり、精神的にもプレッシャーを感じている子ども達も少なくありませんでした。特にホームステイの前は、うまく会話できるか、家族に溶け込めるか等不安そうでした。そんな子ども達に、「大丈夫、大丈夫、何とかなる、いけるよ。」と心を鬼にして送り出しました。

二泊のホームステイを終えた子ども達は、本当にいい出会いをし、涙で別れを惜しんでいた子、うまく会話が通じず落ち込んでいた子など様々でしたが、それぞれ安堵感と一つ山を乗り越えたような晴れ晴れとした表情でした。家族とは違う他人のお世話になることの意味を感じたのでしょうか。

最初は、どうなることか、と心配していたこの旅行、しかし15名の子ども達は、その心配とは裏腹に、ある時はヤンチャで、ある時は繊細で、そして柔軟で、したたかで、と色々な表情を見せながら、どんどんたくましく成長したようです。本当に君達は、すごい！君達がどんな可能性を秘めているのか周りの大人たちには、決して決められない、と実感しました。15人の子ども達、これからも自分を大切に自分を見失わないでね。陰ながら見守っていくよ。

ドタバタの6日間でしたが、全員無事に高松に帰ってこられたことは何よりです。

1日目の中国到着から最終日まで付き添っていただいた南昌市職員の顔さんを始め、温かく歓迎してくださった中国の方々、一緒に引率した山下団長さん、国際交流協会の何さん、本当にお世話になりました。正直、この時期に6日間も職場と家を離れるのは、不安でしたが、そこにはO型人間の私、「まっ、いっか」と開き直って行ってみて、パワフルで大きな中国でいい出会いや刺激を得られ、今では感謝で一杯です。本当にありがとうございました。



万里の長城にて

日中の未来は若者にあり



(財)高松市国際交流協会 事務局員
何 燕萍

3月24日、三回の研修会を終え、大勢の家族に見送られてる中、不安でありながら未知の世界への期待を抱いて若い10代の団員15名が元気にバスに乗り込んだ。そして渋滞に巻き込まれることもなく11時過ぎ関西国際空港に着いた。今回も順調にいけると思ったが、霧で午後1時15分に飛ぶ予定のCA922便はいつ出発できるか不明だという思いもよらぬハプニングに出合った。いつ飛べるか果たして今日上海までいけるかどうかと不安な気持ちで待つ時間なんと11時間。夜の10時半ごろ待ちくたびれた表情で搭乗している団員を見て、この疲れはこれからの活動や日程に響かないようにと願わんばかりでした。

翌朝みんな元気に集まったので一安心。まず上海動物園へパンダに会いに行く。早春の動物園は遠足に来ている小学生などで賑わっている。池の辺りに桃の花が咲いて、枝垂れ柳も若芽を吹かしている。その桃紅柳緑の風景にとっても懐かしくて一抹の郷愁を感じさせられた。あと豫園、上海博物館、黄浦江等を見学してから、新しくできたお洒落な上海南駅から南昌行きの夜行列車に乗った。ノーストップでスーツケースを持って移動する私たちには本当にありがたい。南昌では行政新区の噴水の前では優雅なワルツの音楽にすごい勢いで吹き上がっていく噴水の飛沫を避けながらはしゃいでいる団員の姿に一瞬サンボートの海辺を彷彿させられた。八一中学校を訪問した際、楽しそうに歌ったり踊ったりする時の笑顔が素敵で印象的。ホームステイ先を三軒ほど訪問したが、どの家庭も心温かく迎えてくれている。日本への訪問ができないかと質問され、相互交流できるように今後の課題の一つとして考える必要があると感じた。

南昌を離れるとき涙を流しながらお別れを惜しむ団員、団員全員に中国結びを差し上げる八一中学校の高君、若い世代に友好の絆ができたことを何より嬉しいかぎりである。

北京で万里の長城、故宮博物館、天安門広場を見学して中国の悠久な歴史に間近に触れることができた。6日ぶりに帰ったら讃岐の山々にもう山桜が咲いている。そしてその後、桜満開の季節に中国の温家宝総理が日本を訪問した。両国首脳会談の中で安部首相は「21世紀東アジア青少年大交流計画」による中国からの大規模な高校生訪日の招請及び直行便のある中国の都市への2万人規模の訪問団派遣を、温家宝総理は1984年の3000名の訪中団参加者及び今後5年間で毎年1000名日本の青少年の訪中招請をそれぞれ表明した。

「未来は若者にあり」6日間の旅、短かったが感受性豊かな団員達は中国の歴史や文化風習に触れ、また同世代との交流を通して互いに刺激され、そしていろんな交流の場で覚えた感動は人生の宝となり、これからの日中間の掛け橋になってほしいと願いつつある。

最後にこの派遣事業に多大なご協力くださった南昌市人民政府、八一中学校ならびにホストファミリーのみなさん、張知明主任をはじめとする南昌外事弁公室のみなさん、一緒に同行した山下先生と川尻さんに「ありがとう。謝謝！」



友好会館に迎えに来た八一中の先生と生徒達

「あっ」という間に過ぎた中国



香川県立高松北中学校

細田 祐平

僕が一番楽しみにしていたことは、ホームステイでした。言葉の通じない家で寝泊まりするのはおもしろそうだったからです。

1日目、あまり中国に行く実感がわかなかった。それは飛行機が遅れてその日のうちに中国のホテルに着けなかったからです。

2日目の朝、ホテルのバイキングでは両面焼いた目玉焼きがあったのが印象的だった。黄身だけでなく、白身も半熟でおいしかったです。その日行った上海動物園では鳳を飛ばしている人が多くまるで公園のようでした。動物はやっぱりパンダが一番可愛かったです。夜は夜行列車の中でUNOやトランプなどをして盛り上がりました。

3日目、南昌の滕王閣が最も心に残りました。その中には中国らしい音楽、それに蝶の時計など日本では見られない物が多かったです。その後、南昌の副市長さんと食事をしました。すごく辛いものからプルプルした物まで多種多様な食べ物がありました。

その日はホームステイの初日でした。どんな人かドキドキしながら待っていると、やさしそうな高校生の周さんという人でした。話せる言葉が本当に英語しか伝わらないと実感したのは、車に乗った時でした。家に着くと別世界でした。僕は着いてすぐにお土産を渡したが折り紙は知らなかったようです。ひな人形を渡すと「I know this」と説明してくれました。うどんを作ってあげると喜んで食べてくれました。天ぷらは中国にないので「日本ではおかずを入れて食べる」と説明すると夕食に出ていたおかずをのせて食べてくれました。

4日目、中学校を訪問しました。交流会の部屋に入った瞬間から楽しく盛り上げようという気持がありました。始めに手の届く限りの生徒と握手をしました。その後折り紙や日本語を教えたりしました。最後にもらった花束は今回の旅で一番の宝物です。

ホームステイ最後の日には、ちまきを食べました。日本とはちがい、ねばねばのもちもちでした。中国の食べ物は辛い物が多くて「This is hot.」と何度言っても、中国人にとっては辛くないみたいでした。

5日目、お別れをし、北京の故宮へ向いました。故宮には天然の大きな岩がありました。天安門広場はとても広かったです。この二つの場所の門は日本とちがい大きくて真っ赤でした。最後はいよいよ万里の長城。すごく急な坂道で下りる時はころげ落ちそうになりました。この夜は、中国最後なのでみんなでさわぎました。

6日目、中国の通訳の顔さんと別れをつけ日本に向けて飛行機に乗り込みました。僕はみんなと別れぎわに泣いてしまいました。

中国では、中国の文化や日常、中国の味、2日間だけだったけど家族のように僕を迎えてくれた周さん一家のやさしさ、6日間を共にした14人の仲間の大切さ、たくさん学ぶことができました。

また行きたい、また会いたいという願いを込めて「再見！」



ホストファミリーの周さんと



八一中学校にて交流

私の中国見聞録



香川大学教育学部附属高松中学校

木村 花菜子

私が第15回中学生訪中親善使節団として中国に行ったことは素晴らしい経験になりました。

出発の日、私は不安と期待をかかえてバスに乗りました。バスの中で話をするうちに新しく友達もできました。関空で11時間待つということもありましたが、無事に中国に着くことができました。

2日目には、パンダで有名な上海動物園や豫園に行きました。間近で見たパンダはとても可愛かったです。また、その日は夜行列車で南昌へ移動しました。列車は想像以上に狭く大変でしたが、とても楽しかったです。

3日は南昌市人民政府を表敬訪問し、滕王閣などの見学に行きました。この日は、中国の歴史や偉大な人物について知ることができ、とてもためになったと思います。

夕方に、ホームステイ先の家族が日中友好会館に迎えに来てくれました。どんな人かなあとワクワクしていたので初めて会えたときにはとても嬉しかったです。彭昕苗さんは高校1年生と聞いていたので、英語についていけるかどうか、とても不安でした。でも、私分からないときには辞書だけでなく、身ぶり手ぶりや絵を交えて会話をしてくれたのでその不安も吹き飛びました。少し打ち解けてからは、私に分かるように話をしてくれたり、自分で描いた絵を見せたりしてくれました。

私が手作りのプレゼントをわたすと、とても喜んでくれました。また、夜には美しい噴水を見に連れていってくれました。そこでの光景はとても素晴らしく、私の最高の思い出のひとつです。そして、彭昕苗さんのお母さんがつくってくれた料理はとてもおいしく、それを伝えると、とても喜んでくれて、もっと食べるように言われたのが印象的でした。

4日目には中学校を訪問しました。踊りや歌など素晴らしいものばかりでとても楽しかったです。また、私達のクイズも成功したため良かったと思いました。

5日目はホストファミリーとのお別れの日でした。とてもよくしてもらって別れるのがつらかったです。その後、有名な万里の長城や故宮などを見学しました。

6日目に北京空港から帰国しました。疲れてはいたものの、とても充実した気分でした。

私はこの使節団に参加し、様々なことを学びました。言葉が上手く通じなくても、一生懸命相手に伝えようと思えば理解し合えること、集団行動で1人1人に伴う自覚と責任、友達と親交を深めること、積極的に物事に取り組む姿勢、礼儀をわきまえること、自己管理などのことです。まだまだたくさんのことを学びましたが、中国で学んだことを生かして、これからの生活を豊かなものにしていきたいと思います。今回、この使節団のために準備をくださった全ての方に、また家族に、感謝します。



新しい友達と



滕王閣からの眺め

私の国際交流



香川大学教育学部附属高松中学校

辻 暁里

私は、中学生訪中親善使節団に参加するのにあまり英語に自信がありませんでした。言葉が通じなくても積極的に交流することを心がけようと思っていました。私の初めての国際交流、訪中6日間を報告します。

初日は深夜に上海に到着しました。たくさんの建物がライトアップされていて夜景の美しさとビルの高さに驚きました。2日目によく中国に来た実感がわいてきました。2日目は上海動物園、博物館と豫園を見学しました。上海動物園では楽しみにしていたパンダを見ることができました。汚れていて日本で見るような白黒のぬいぐるみのような綺麗なパンダではありませんでした。ちょっとがっかりしました。豫園では人が多くて迷子になりそうでした。2日目の見学が終わって次の訪問先、南昌市へ向かう夜行列車の中では、使節団のみんなと遅くまで話をしてほんとうに楽しかったです。夜行列車も苦になりませんでした。3日目に高松市の友好都市南昌市に到着しました。滕王閣では中国の伝統楽器の演奏を聴かせてもらいました。心惹かれる美しい音色が印象に残りました。そして3日目の夜、ついにホームステイ先の家族と対面しました。すごく緊張していましたが私の緊張もホームステイ先の僑芮ちゃんの温かい笑顔で解れました。さっそくお互いの自己紹介や互いの住んでいる街の紹介をしました。僑芮ちゃんの会話の中には知らない英単語がたくさん出てきて戸惑いましたがジェスチャーを交えてなんとか会話ができました。不安だった英語が通じて少し安心しました。家についてからは日本人の有名な歌手や歌を教えてあげました。一緒に韓国人の人気歌手グループ「東方神起」が歌っているDVDを見たり、テレビでニュースを見たりしました。中国ではテレビの番組が多く50種類ぐらいあって驚きました。4日目は南昌市八一中学校を訪問しました。私たちのために歓迎の民謡や踊りを披露してくれました。男の子も女の子も格好良くて思わず見とれてしまうほどでした。夕方には僑芮ちゃんが迎えに来てくれました。家には中国の地元テレビ局の人たちが私たちを取材に来ていました。僑芮ちゃんと二人で様々なインタビューを受けました。取材の後テレビ局の人と一緒に外に食事に行きました。そこで料理がちょっと辛かったので自分でお店の人に“Water please?”と英語で注文しましたが、お店の人には英語が通じませんでした。困っていると僑芮ちゃんが助けてくれました。まず僑芮ちゃんに“Water please? W,A,T,E,R water”と伝えました。それから僑芮ちゃんが店員さんに中国語で代わりに注文してくれました。水が来てほっとしました。このことがテレビ局の人にうけて、カメラを回して同じことをもう一回やりました。きっとわたしのやらせで演技したぎこちなさが中国で放送されたと思います。5日目に僑芮ちゃんとの別れのときが来てしまいました。ホームステイが始まる前は不安で一杯だったけれど、ホームステイ先のご家族が温かく迎えてくれたのであつという間終わってしまいました。お互い泣かずに笑って別れることを約束して別れました。

訪中の充実した6日間でたくさんの体験をしました。今回の訪中に参加することができて本当に良かったと思います。自分の伝えたいことが英語で伝わったときの感動は一生忘れないと思います。私の英語でも会話はなんとかだったので、すこし自信がもてるようになりました。最後にお世話くださったたくさんの方々にお礼が言いたいです。本当にありがとうございました。



ホストファミリーの僑芮ちゃんと



使節団の友達と

中国へのイメージで



香川大学教育学部附属高松中学校

小野 翔子

中国と聞いて思い浮かべるものは何だろう。赤色、活気のある人々、にぎやかで華やかな文化、もうすぐ日本やアメリカに追いつくといわれている国…。ニュースや写真でしか中国を知らない人は多分こう答えるだろう。実際、私もそうだった。しかし、この中国へのイメージの一部は無残にも中国到着の夜に打ち砕かれたのだった。

私たちが中国についた午後11時30分。私たちが一番努力しなくてはいけなかったのが、とにかくホテルに着くまで眠らないことだった。その努力を一番に怠ってしまったのが多分私だろう。うつらうつらしていた私の目に飛び込んできたその建物は夢と現実を行き来している私にとって夢としか思えない豪華さだった。夜12時をとくに過ぎているのに光り輝くシャンデリア。あたたかいロビー。フロントの人のきびきびとした姿勢。「おいおい、これが中国のホテルかい。日本に追いつかれるとか言いながら日本よりレベル高くないか。」これがホテルと中国の第一印象。第一印象というのは恐ろしいものだ。一度中国にそういうイメージをつけてしまうと、よほどぼろっくなくかぎりずっとレベルが高いという目で中国を見てしまう。なんとかそれを打破しようと心を無にして物を見てもやはり中国はすごかった。例えば南昌市の町並み。「南昌なんて聞いたことないからなあ。ポロポロだったらどうしょ…。」などといらぬ心配をしていた私。行ってびっくり、見てびっくり。どこを見ても高いビルビルビル……。マンション・アパートも高い高い。夜なんてもっとすごい。一步町へ出てみるとイルミネーションがガラガラ…。「昼かよ。」と思うほどだった。

これだけ近代化を推し進めていった中国の人々。見た目は日本人か中国人かさっぱり分からない。しかし、その内に秘めたものが日本人と全く違うのだ。つまり活気がある、ということである。しかし優しさがなければいけない。ホストファミリーとのエピソードを一つ。ホームステイ2日目、家に着くといろいろな人がぞくぞくと集まって来た。何事だろうと思ってその風景をボーっと見ていた。すると皆テーブルに座り始め、私の方を一齐に見て手招きしだした。どうやら中国ではお客様がくると、皆で歓迎会をするらしく、それは私の歓迎会だったのだ。やはり中国の人は優しく人情にあつい人が多いなと思った。

そういう中国の人だからできたことがもう一つ。文化財を守ることである。数々の文化財の中で一番の驚きを見せたのは故宮だった。皇帝が住んでいた所とは聞いていたけれど実際行くと「どれだけ広いんだよ。日本の王様の住んでいた城とか皇居より広いし。」と思うと同時に、保存の仕方の良さにも驚いた。手すり一つ一つの龍などの彫刻や天井の絵の細部もきちんと残っていた。それはすべての文化財に言えたと思う。

こうして帰ってきてみると私は中国についてたくさん思い違いをしていた様に思う。私はこれまでテレビや本などから「中国」というイメージを創り出して来ていたのである。しかし、中国に行ってみてははじめにも書いた通り、そのイメージは無残にも崩れ去った。多分アメリカやヨーロッパ各国などありとあらゆる国々に対するイメージも同じことになるだろう。けれども、それで本当の国際交流が出来るのだろうか。太平洋戦争での沖縄の地上戦で日本は外来語や英語などのアメリカ関係のものをすべて排除したが、アメリカは日本語や方言、歴史などすべて兵隊に学ばせたということがあるそうだ。私はこれと同じようにその国の人々の考え方、目線などをすべて学んでこそその国際交流でないかと思う。だから今回私は「中国」という国との国際交流第一歩を踏み出せ、本当に良かったと思う。



万里の長城に到達！



ホストファミリーの怡園ちゃんと

熱烈歓迎に感動！



香川大学教育学部附属高松中学校

秋友 祥子

さあ、今日から中国だ！と期待と不安を抱えながら、今回の中国への旅は始まった。ところが！！関西空港に着いてから突然のハプニング。私達が乗る予定の飛行機が、中国の大連から飛んで来られないらしい。理由は、霧と大連の空港で行われている軍事訓練の2つのようだ。これを聞いたとき私は驚いた。急に軍事訓練が行われ飛行機が飛べないなんて、日本ではありえないことだから。まだ日本にいるうちから、私は中国と日本の違いを知った気がした。

予定より9時間近く遅れて真夜中に上海に着き、朝から市内見学。上海動物園や豫園へ行った。豫園の外には人々の生活が良く分かる風景が広がっていた。道につるしてある洗濯物、お金をいれるための器を持って座っている障害を持つ人。日本にはない風景で怖かった。

26日の朝に夜行列車で南昌に到着。天気はあいにくの雨だが、さっそく市内見学に出かけた。料理は、南昌が中国の南に位置するため辛かった。辛いのが苦手な私は苦労したが、南昌名物のビーフンはとてもおいしかった。

夜はとうとうホームステイ。言葉は通じないし、文化は違う。私の英語は片言。そんな環境の中で、自己紹介をして日本から持ってきたお土産を渡し、日本・高松の紹介ができるのだろうか。必要なことさえも伝えられなかったらどうしよう……。不安は大きかったが、とても楽しみにしていたのも事実。私の不安をよそに、ホストファミリーはとても優しくあった。うれしかったことは、ステイ先の魏夢瑶ちゃんの友達から何回も電話がかかってきたこと。なかには、日本語で挨拶をしてくれた友達もいた。感動！

27日は、南昌市内の八一中学校へ訪問する日。中学校の生徒さんが熱烈に出迎えてくれたことが、とてもうれしかった。校長先生に挨拶をしてから、校内見学、交流会。交流会では、私達のために様々な出し物を用意してくれていた。楽器の演奏・太極拳・孔雀の踊りなど素晴らしかった。班で用意してきたクイズや、みんなで練習してきた歌・踊り、喜んでくれたかな。

昼食は、八一中学校の校長先生たちといっしょに。亀が出てきてびっくり！ スーパーマーケットでは、平日の昼にもかかわらず人がたくさんいた。中国はやっぱり人が多い！

夕方からホームステイ。お母さんと夢瑶ちゃんが買い物に連れて行ってくれた。食事の後は、夢瑶ちゃんと彼女の友達に会った。5人もの友達が会いに来てくれ、遊びに行った。ゲームセンターには日本のゲームもあった。みんな親切でおもしろく、私にやさしく話しかけてくれた。言葉が通じなくても、いっしょに笑い楽しむことができた。前日は、私の英語が伝わらないことが怖くて自分から話すことが少なかったけれど、打ち解けて自分から積極的に話せた。国を越えて友達ができたことが、こんなにうれしいとは思わなかった。

28日は、せっかく仲良くなれたホストファミリーとお別れ。朝早いのに、昨夜一緒に遊んだ友達が3人も見送りに来てくれていて、驚き・感謝！お別れは悲しかったけれど、またみんなに会いに来よう！と決心した。

北京では、2008年のオリンピックの準備が着々と進められていた。万里の長城のところには、北京オリンピックのテーマが掲げられていた。また選手村も造られていて、今から来年のオリンピックが楽しみになった。万里の長城・故宮博物館では、中国四千年の歴史に感動！夕食は、もちろん北京ダック。おいしかった～！！

29日は、日本へ帰国。さらば！中国。また中国へ行くまで再見！だね。楽しかったこの6日間。貴重な体験をさせてもらった。お世話になったすべての人に、ありがとう！謝謝！



万里の長城で



南昌でできた友達と

一生忘れない六日間



高松市立鶴尾中学校
竹川 美香

ワクワクした気持ちでアイパル香川を出発した三月二十四日。しかし飛行機が霧で飛べないという事が起きた。私は一気に不安になりました。このまま飛行機は飛べないのか、中国行きがなくなるのかなどいろいろな不安がよぎった。それから十時間ぐらい待ってやっと飛行機に乗れた時は大変うれしかった。

二日目は上海動物園で本物のパンダを見ることができました。本物のパンダはとても大きくて、ぬいぐるみのようにかわいかったです。夜は夜行列車に乗り、少し遅くまで皆で学校の話などいろいろな話をする事ができ、胸が踊りました。

三日目の南昌市は一度も行ったことがないので、たくさんの場所を見学でき、新たな中国を知ることができました。特に「滕王閣」が印象に残っています。滕王閣はとても大きくて細かい所まで模様があり、すごくキレイで感激しました。

友好会館で初めて会ったホームステイ先の女の子詩陶ちゃんは、私より一つ年上で音楽が好きな子でした。その日は緊張していて、あんまり話すことができなかつたけど詩陶ちゃんのお母さんが、「日本の番組でウルトラマンティガがあるよ」と教えてくれて詩陶ちゃんと一緒にウルトラマンティガを見ました。中国で日本のTV番組を見れると思っていなかったので、親近感を感じました。

四日目は南昌市八一中学校訪問です。日本と中国の違いは何だろうと思い訪問しました。校舎は中国らしくとても大きくてきれいでした。日本の中学校の運動場は土ですが、八一中学校は競技場のようなゴム製の運動場でした。そして八一中学校の校舎を色々見学した後、コンサートホールみたいな所で歌や踊りなどを披露してくれました。中国の伝統を感じるものでとても美しかったです。私たちも三回の事前研修で用意した歌、踊り、ゲームを披露しました。この交流で中国の子はいろんな事に積極的だということがわかりました。そしていろいろな子と仲良くなりました。その後校長先生と一緒に昼食会をし、秋水広場という所で噴水を見ました。噴水の規模はとても壮大でスケールの違いをまた痛感しました。そしてこの日はいつもより早くホームステイ先に帰り夕食を食べました。そして詩陶ちゃんと一緒に写真をとったり、私が持ってきた大阪城などの写真を見せたり、詩陶ちゃんと一緒に音楽を聞いたりするなどして、お互いの国のいろいろな話をする事ができました。

北京で一番心に残っているのは、万里の長城です。実際の万里の長城はすごく長くて、しかもすごくキレイで感激しました。万里の長城から見る景色は大変壮大で感動しました。

中国の旅では、驚きと発見の連続でした。最初は不安な事もあったけれど活動するごとにその不安もなくなっていました。日本からの使節団として中国に行けたことは貴重な体験となりました。中国の方は、日本と変わらず優しく、ユーモアのある方が多く親しみやすかったです。この交流を通してたくさんの友達ができたことが良かったと思います。一日一日が充実していて楽しく、毎日がワクワクでした。日本と中国のかけ橋になろうと思いつつも意識していましたが、ジェスチャーや表情で何とか理解する事ができました。中国語と中国の文化などいろいろなことを、たくさん知れて本当に良かったと思います。

この貴重な体験をすることを支えてくださったみなさん、詳しくいろいろな事を説明して下さったガイドさん、明るく元気で優しい団員のみんな、とっても優しく小さなことでも気にしてくれたホームステイ先の家族のみんな、本当にありがとうございました。みんなのことは一生忘れません。楽しかった六日間をありがとう。「謝謝！」



パンダ



詩陶ちゃんと

訪中を通して、得たもの



高松市立牟礼中学校
佐藤 うらら

日本を出発する日、悪天候のため関西国際空港で11時間以上も足止めというハプニングからのスタート。そんな始まりが予感させたように、6日間の中国訪問では驚きの連続だった。

上海の地に降り立ち、目の前に広がっていたのは、うわさには聞いていた近代化された高層ビルの数々。そしてあふれかえるようにして通りをゆく車、バイク、自転車、人……。横断歩道のない、車が縦横無尽に通るところを自転車や人が当たり前のように渡っていく。交通ルールはあつてなきがごとしで、勇気ある者が勝つ、という世界であった。ところが、そのニョキニョキと立ち並ぶ高層ビルの谷間には、お椀を持って物乞いをしている子どもや身体障害者の人たちがいたり、歩道の真ん中に横たわっている人にハエがたかっている光景があったのだ。一步裏に入ると、古い小さな家が建ち並び、貧富の差の激しさを目の当たりにした。これが中国政府がかかえる重要課題の一つであることも後で知った。

しかし、それにしても中国人はフレンドリーな人が多く、活力にあふれる雰囲気がある。私たちが訪問した八一中学校の中学生も好奇心旺盛で、積極的に交流を楽しんでいた。

ホームステイ先の徐浩ちゃんの家族は、飾らない温かな家庭であった。徐浩ちゃんと一緒に折り紙を折ったり、写真を見せ合ったり、高松市と南昌市のことを教え合ったり、色々なことをした。私が高松市の有名な観光地、まんのう公園を紹介すると、彼女はとても気に入ったらしく、「いつか高松市に行ってみたい」と言ってくれた。そのときは観光の案内をしてあげたい。また、彼女の家では、朝食に水餃子、夕食では白いご飯に青梗菜の炒め物やトマトと卵の炒め物などをごちそうになった。また、デザートにフルーツポンチのようなものが出てきたのだが、驚いたことに、半分に切ったミニトマトが飾られていたのである。そういえば、上海のホテルのバイキングでもフルーツコーナーにミニトマトが盛られていた。中国ではミニトマトは果物なのだ。驚いたことはまだまだある。徐浩ちゃんのお母さんが皮をむいたリンゴを「さあ、お食べ」という調子でまるごと渡してくれたのだ。私がとまどいながらチビチビかじっていると、徐浩ちゃんがみかねて包丁でリンゴを切ってくれた。ところが、芯がついたまま輪切りにしてくれたので、目が丸くなったが、その食べ方を行儀が悪いと思うのは日本的な考え方ではないか、とふと思った。この事を通して、自分たちの常識や慣れ親しんでいるしきたりと違うことを排除せず、受け入れることも大切だと感じた。

この「訪中親善使節団」の団員として中国を訪問したことで、学校の枠を越えて友達を作ることができ、その友達は私にとってかけがえのない宝物となった。同じ不安や緊張感、そしてワクワク感を感じているからこそ、分かり合えることも多かった。特にホームステイでホームシックになりかけの私を支えてくれた友達にはとても感謝している。いつも前向きに考えることがどれだけ大切か。友達と話してひしひしと感じた。

人から頼られる人になりたい。

「自ら」を知り、「他」を受け入れることができるような人になりたい。

この訪中で、お世話になった山下団長先生、川尻先生、何先生、ホームステイ先のご家族の方々、私を支えてくれた友達、そしてこの使節団に参加させてくれた両親や周りの人たちに心から感謝している。「謝謝！！」



北京オリンピックの看板 万里の長城にて



友達と笑顔でピース！ 万里の長城にて

最高だった六日間



高松市立協和中学校

水野 莉沙

3月24日。自分が中国に行くという実感がなく、たくさんの方々に見送られ、関西国際空港行きのバスに乗りました。バスの中では友達との会話が弾み、とても楽しかったです。バスは予定通りに関西国際空港に到着。予定通り飛行機も出発すると思っていたのに、飛行機にはいつまで経っても乗れない…。関空内で昼食と夕食を済ませ、飛行機が飛んだのは22時くらいでした。初日からついてないなあと思いました。

3月25日。朝食はホテル内のバイキングでした。本場の中華料理は初めてだったけれど、おいしかったです。昨日行けなかった所にも行きました。上海動物園では、いっぱい歩いて疲れました。でも、パンダを見ると、その疲れはふっ飛びました。夜は夜行列車で友達と楽しく話せてよかったです。

3月26日。この日から南京市。表敬訪問をしてとても緊張しました。夜からはホームステイ…。自分の英語・中国語は通じるのだろうか…。仲良くなれるのだろうか…。様々な不安でいっぱいでした。雷ちゃんは本当に優しくしてくれました。雷ちゃんのお姉ちゃん、お母さん、お父さんも本当に優しくしてくれました。雷ちゃんのお姉ちゃん、王ちゃんは私の英語と家族の中国語を通訳してくれました。私にとっては本当にありがたい人でした。お母さんは髪を乾かしてくれました。お父さんは、送り迎えをしてくれました。

3月27日。雷ちゃん一家と食事をしに行きました。そこにはいどこなど、たくさんの方がわたしを歓迎してくれました。たくさん私に話しかけてくれて嬉しかったです。人がかかわる、仲良くなるのに言葉・国は関係ないんだ、と改めて思いました。それからライトアップされた秋水広場へ行きました。とてもきれいでした。

3月28日。南昌から北京へ。ホストファミリーとのお別れはとても悲しかったです。本当にお世話になりました。万里の長城に行きました。3つめまで行ったけれど、上りは本当に疲れました。でも下りのほうが怖かったです。最後の夜…。ホテルでみんなで楽しく過ごしました。

3月29日。いよいよ中国ともお別れ。最初はなることかと思っていた中国。けがをすることもなく、とても充実した6日間でした。なったものがあるとすれば、ホームシックだけでした。

私はこの中学生訪中親善使節団に参加することができて本当によかったです。国や言葉が違っても笑顔は万国共通なんだと思いました。最後になりましたが、山下団長先生、何先生、川尻さん、ありがとうございました。そして中国…「謝謝」



天安門広場で友達と



大変だった万里の長城

中国を大好きになってほしい



高松市立国分寺中学校
内藤 謙史郎

今、僕の手元にそう記されたメッセージカードがある。南昌市を去るとき、ホームステイ先の林杰くんが手渡してくれたものだ。

ホストファミリーにお会いするまで、僕はうまく会話ができるかどうか不安でたまらなかった。引っ込み思案の僕は迎えに来てくれた林杰くんとお父さんに「晚上好」と挨拶しただけで、車の中ではほとんど話すことができなかった。

このままではダメだ…と思い、家を出迎えてくれたお母さんやお姉さんたちには「Nice to meet you!」と精一杯の笑顔で言った。するとお姉さんのひとりが英語で話しかけてくれた。それからは、わからない英語の綴りを紙に書いてもらったり絵や漢字を使ったりして、家族のみんなと何とかコミュニケーションをとることができた。食事についても、辛いというイメージがあって不安だったが、肉まんやシュウマイなど日本人に馴染みのものを出してくれていたし、南昌独自の料理があれば、「Do you like this?」と聞いてくれた。とてもおいしい料理ばかりを頂いた。

二日目の晩には、「Let's go to lake and shopping.」と誘われた。記念写真の一枚が湖の公園で撮ったものだ。買い物に訪れた店では、品物ひとつひとつを手に取り、「Do you know this?」「Do you like this?」と僕に聞く。どうするのかとっていると、袋ごと「Give you!」とプレゼントしてくれた。それらは中国や南昌市のお勧めのお土産だったのだ。帰国後、僕が家族や友人知人と頂いた物を見たり味わったりする時、林さんご一家の心くばりが思われる。

別れ際、僕が自分の顔写真や連絡先の入った手作り名刺を林杰くん差し出すと、林杰くんもお姉さん達と連名で書いた英語のメッセージカードを手渡してくれた。南昌での時間はあっという間に過ぎ、本当にもっといろんな話ができればよかったのと思う。

僕はあらためて中国訪問の機会を頂いたことに感謝している。初めての中国で、上海のめざましい発展を遂げる様子や北京の豊かな歴史や雄大な自然を体感することができた。

それは今回の親善訪問で親しくなった高松市内のいろんな中学校の仲間も同じだと思う。

そして最大の成果は、僕が友好都市南昌で林さんご一家から受けた温かいおもてなしのおかげで、中国と日本の、人と人の心の交流を確かめることができたことだ。

僕は心をこめてこう言いたい。

「中国が大好きになりましたよ。きっとまた来ます。謝謝！」



林杰くんと南昌市湖の公園で



ホストファミリーのお宅で

中国での思い出



高松市立太田中学校

轟 綾乃

3月24日の朝、私は中国へ行くという実感の無いままバスへ乗り込みました。そして、関西空港で最悪な事が起こりました。私たちの乗るはずだった飛行機が、天気などの都合で関西空港まで来られず、私たちは11時半から22時までの間、関西空港で飛行機が来るのを待ちました。そして0時半、やっと上海に到着しました。上海に着いて初めに思った事は「独特の臭い」という事です。ホテルでは疲れていたの直に眠りました。2日目、朝食はバイキングで、そこには見慣れない料理がたくさん並んでいました。そして上海動物園。私はパンダを見るのを出発前から楽しみにしていたので、ワクワクしながら園内をまわりました。パンダが笹を食べる姿はとっても可愛かったです。一番驚いた事は、リスがおりののではなく園内を自由に動きまわっていた事です。お昼ごはんは初めての中国らしい料理でした。お昼からはいろんな観光地を巡り、夕方に列車に乗り込みました。私は列車の中で泊まるのが初めてだったので、とてもワクワクしました。列車の中は狭くて窮屈だったけど友達と話したり夕食を食べたりして楽しく過ごしました。3日目、朝目覚めると南昌に着いていました。列車を降りると上海とは違う臭いがしました。南昌市人民政府を訪問したときは6日間の中で一番緊張しました。テレビ局が来ていて、団長先生が挨拶をしていました。その後、市長さんたちと食事をしました。とても大きな丸いテーブルに一人ずつの料理が置かれていて、少し緊張しながら食べ始めました。どんどん料理が出てきて、最後のアイスクリームが出てきた頃にはみんな満腹でした。その後は一番楽しみにしていたホームステイでした。私のホストファミリーはとっても優しく、私をとっても歓迎してくれました。私のホストファミリーの女の子は中二とは思えないほど英語がペラペラで、びっくりしました。次の日の朝は湖に行って、ホストファミリーと写真を撮りました。それから八一中学校で、南昌市の中学生と交流しました。中国では飛び級ができるので、小さい子供たちがたくさん居ました。八一中学校の人たちの出し物はとてもすごくて見とれていました。私の班の出し物は全くダメで、失敗でした。舞台の上でどうすればいいかわからず、混乱して泣きそうになりました。でもその後の踊りはみんな楽しんでくれて良かったです。そして夕方からホームステイの家に帰ると、おばあちゃんが来ていました。夕食を食べて、おばあちゃんの家に行って、おばあちゃんの飼っている犬と遊びました。その後、ホストファミリーのみんなで行き物に行き遊びました。5日目はホストファミリーとのお別れでした。2日間しか一緒にいなかったのに、まるで家族のようでした。だから、お別れは悲しかったです。そして飛行機で北京に行きました。北京はとても乾燥していて、皮膚がかさかさしたり、目が痛くなったりしました。レストランで昼ご飯を食べて、万里の長城に行きました。思っていたよりもとても長くて大きくてビックリしました。それに、登っていくと坂が急になっていって降りてきたら、息がハハハ言っていました。それから観光したり買い物したりして、夕方にレストランに行きました。そこでは初の北京ダックを食べました。思っていた味と全く違って、味がほとんどありませんでした。あと、サソリも勇気を出して食べました。ホテルでは、お土産を買ったり、荷物をまとめたりテレビを見たりして過ごしました。そして最終日、日本についてアイバルに着くと、お母さんがいて、なんだかホッとしました。みんなのお別れは悲しかったけど、この6日間は私にとってとてもいい思い出になったし、素晴らしい体験をする事ができたと思います。中国での旅を通して、言葉や文化の違いがあってもこんなに仲良くなれるし、こんなに分かり合えるんだ、と思いました。それに、この6日間で少し強くなれた気がします。最後に、自分一人ではできない素晴らしい経験をさせてくれた人たちに感謝したいです。



徐暢ちゃんと



最後の夕食

友情を深めた中国



高松市立香南中学校

白井 希依

3回目の中国。私は小学校の頃新体操を習っており、その先生が中国の人でした。その関係で2回ほど北京体育大学に行ったことがあります。その時に中国の人達の朗らかさに触れ今回の訪中を決めました。そのため、あまり不安はありませんでしたがただ、この訪中に参加する友達と仲良くできるかということ、ホームステイ先できちんとコミュニケーションがとれ、中国の文化や言葉を教えてもらい、反対に自分の国の事や家族の事を言葉を使って伝えられるかという不安はありました。

出発の日、10時間も関西空港で足止めされていたおかげで訪中に参加する人たちとたくさん話をする時間を持つことができ、最初の不安はなくなりました。あとは早く中国に行きたいという思いだけが強く、飛行機からおりた時は、初めて中国に行った時以上に、とっても感動しました。

ホストファミリーに会える日が近づくにつれ、不安と緊張でいっぱいになりました。姚鈴と会った時の姚鈴の笑顔で今までの不安でいっぱいだった心が少し安らぎました。しかし、ホームステイは初めてで「ニーハオ」としか言えずとまどっていると、姚鈴が私の腕をひっぱり、ずっと手を握っていてくれたので本当に心強かったのを覚えています。

姚鈴の家に着くとすぐ、持っていた写真を見せました。すると、姚鈴も写真を見せてくれました。その時は心配事などひとつもなく、とてもみんなで盛り上がりました。2日目は、日本から持っていったけん玉をしたり、日本語を教えてあげたりしました。日本語はとてもむずかしいらしく、私の名前を「キエ」ではなく「チエ」と呼んでいました。それでも漢字を書いたり、ジェスチャーで教えてあげながらコミュニケーションをとりました。たった2日間だけでしたが、こんなにも私を大事にしてくれて本当に嬉しかったです。「また、絶対に行くから」と言うのと「日本語をいっぱい勉強して必ず日本に行くから」と約束してくれました。一番不安だったホームステイが今回の訪中での一番の大切な思い出となりました。

何回訪れてもまたすぐ行きたくなる中国は、私の性格に合っているのかもしれませんが。広い大陸のように心の広い中国の人たち、必ずまた行きたいと思っています。

追伸

最近、姚鈴から手紙が届きました。私ももちろん英語、日本語、中国語で手紙を書くつもりです。



in 中国 ☆



壮大な万里の長城

日中友好の旅



高松市立香川第一中学校

田口 梨栄

中国に行く何日も前からドキドキ、ワクワクしていました。そしてついに待ちに待ったその日がやって来ました。みんなと友達になれるかな、ホームステイは大丈夫だろうか、期待と不安を胸一杯につめこんだまま始まった5泊6日。本当にあつと言う間でした。経験した全てのこと一つ一つがすごく楽しく、素晴らしく、貴重なものばかりでした。私はこの旅で色々なことを学びましたが、一番強く感じたことは「絆」でした。

まず、私が挙げるのはホームステイのことです。ホームステイがはじまる前、私は本当に不安でした。もう日本語は通用しないんだ、そう思うと2日間のホームステイがゆううつなものになりました。けれど中国の中学生の人々を見たとき、その思いが少し軽くなりました。お互いの国の言葉が分からないんだから、お互いの立場は同じだ。そう思えると持ち前の明るさを取り戻せた気がしました。1日目はすごくきんちょうしていて、ガチガチだったけれど、ホームステイは自分が想像していたものよりもはるかに楽しくて、いつの間にか笑顔になっていました。言葉が通じなくても、気持ちは世界共通なんだな、と感じました。たった2日間のホームステイだったけれど、別れるときは本当に悲しくて、もっと一緒にいたいと思いました。国をこえて友達ができたことは、私にとってすごく貴重な出来事でした。このホームステイで友達になることができた雪霊は私の大切な人の1人です。今度はぜひ日本、高松で再会したいです。これが私の1つ目の「絆」です。

2つ目は団員内でできた「絆」です。私はこの中学生訪中親善使節団には1人で参加しました。初めは知らない人ばかりで、友達と呼べる人がいなかったけど、中国で同じ体験をしていく内に、学年、学校関係無く、気の合う友達に出会うことができました。私はこの出会いに感謝しています。普通に生活をしていただけでは絶対にすることができない経験を一緒にしたからこそ、5泊6日という短い期間内でも仲良くなれたのだと思います。何年後かにこの団員メンバーで集まることができたらいいなあ…。こう思える位今回のメンバーで中国へ行けて良かったと思っています。

中国は本当に素晴らしい国でした。海のように大きな川、100m以上も上がる噴水など驚きと感動の連続でした。中国と日本は同じアジアだから似ているのかな、と思っていたけどやはり別世界でした。私はこの使節団に参加し、今まで触れたことがなかった世界に触れて、物事を考える定義が少し広くなったと思います。今回経験したことは、普段の生活の中でずっと私を支えてくれると思います。

この様な素晴らしい経験を私に与えてくれた全ての人たちに！ありがとう。



日中友好会館で、南昌の友達と



初めての北京ダックに感動！もちろん美味しかったー。

中国への思い



高松市立紫雲中学校
白井 宏明

僕たちの訪中親善使節団は、悪天候により関西国際空港で十時間近く待機するという最悪のスタートをきった。また、訪問中も雨が多く見学も十分にできなかった。そんな中でもいろいろな発見や驚きがたくさんあった。例えば、中国のポストの色は緑色だとか、卵焼きは、両面が焦げるくらいまでしっかりと焼いていて、さそりが料理に出るのは別に珍しくなく普通だと言う。また、食事は必ず少しずつ残さなければならないなど日本と異なるマナーもあった。この他にもおよそ59項目に及ぶ発見や驚き、また自分だけの秘密があった。

そのなかでも心に残ったものを5つあげると言われたら僕はこう答えると思う。1番目はホームステイ、2番目は万里の長城、3番目は南昌市の八一中学校への訪問、4番目は紫禁城、5番目は、使節団の仲間との思い出である。

その1番目、ホームステイの思い出である。ホームステイ先のジョン君は、緊張していた僕に対して、日本語で「こんばんは」とフレンドリーに話しかけてくれた。おかげで緊張がとけ、すぐに落ち着くことができた。ジョン君の家は、ホームステイ先の中で一番お金持ちだと聞いて、期待でいっぱいだったけど、家の中に入るとどこか中国らしいものの、いたってシンプルだった。でも、中国では、パソコンを2台以上持ち、旧市街地に住むことは非常に難しいそうだ。

ジョン君とは、簡単な中国語を除いてほとんど英語で話した。でも、英語で話している内容が入れ違ったりすることが少なくなかった。例えば、「ドゥーユーウォントサムジュース？」と聞かれて、「オウ！ イッツノットイージーアンドタイアドトゥー」などと答え、お互いの間違いに気づいたときには、床に転げまわるほど爆笑した。そんなこんなであっという間に仲良くなれた。2日目にはパソコンで制限時間内に同じ絵をそろえ、いくつそろえられるかというゲームをした。訳も分からずゲームオーバーになり、悔しい思いをしたのも良い思い出だ。

そして次に、中国の文化の凄さについて伝えたい。僕が行った所は中国を代表するあまりにも有名な建造物ばかりだ。万里の長城は向こうの方まで果てしなく続いているかのように感じた。そして、僕は40分間という限られた時間内に友達と「行けるとこまで、行ってみんなに自慢しようぜ」と意気込んでいたがいざ行き始めるとその意気込みはどこかにいき、疲ればかりがたまっていって投げ出したくなった。また、紫禁城も万里の長城に負けないくらいすごかった。まず、大きさそのものにびっくりした。紫禁城にたどり着いたときには赤くて巨大な城壁が見えた。今回は、裏門から入ったのだが、裏門とは思えないほど、大きくて感動した。でも、こんなものはまだ序の口に過ぎない。中に入るとひとつひとつの建物が大きくて、こんなところに住める人って本当にごくわずかな人たちだったのだろうなあと感じ、一度でいいから、皇帝の座った椅子や寝るときに使ったベッドのようなもので過ごしたくなった。本当に昔の中国の文化の凄さや豊かさは想像をこえていた。

一方、中国では、ホームレスや物乞いがありとあらゆる場所にて、小さな子どもから怪我をした人、かなりやせ細った老人まで年齢を問わずに見られた。そして、一人一人が手を振りながら「プリーズマネー」と言いながら近づいてくる。また、中国の人ごみの中ではパスポートや財布などがすられると聞き、絶えず気をつけていなければならなかった。今まで、日本は恵まれていると思ってはいたものの、どのくらい、どのように、どんな感じでなどあまり実感が無かった。そして、日本に帰ってきたときには、本当にほっとした。

今回の中国訪問で僕の立てていた目標である『中国と日本の文化の違いを見つけ、スケールの大きさを、身をもって体験する』ことは120パーセントくらい達成できたと思う。

訪中のあいだに多くのことに気づき、気付いたことを取り込むことができた。でも、中国にはまだまだ知らないことや新しい発見があるに違いない。こんなにも貴重な体験ができ、使節団に参加できて良かったと思う。自分がこんな体験が出来たのもいろいろな人の協力があったからだ。高松市国際交流協会の人、ホームステイ先の人、通訳の人、ガイドの人などすべての人に感謝したい。

これから、中国の良いところを伝え、広めてゆくことで協力してくれた人達の期待に応えたいと思う。



団員の人たちと故宮で



ジョン君と僕

感動した中国



高松市立紫雲中学校
横山 彰

出発の日、僕は期待と不安を胸にバスに乗り込み「これからどうなるのかな〜？」と心の中で思った。順調に行けると思っていたのに飛行機が霧の為に来れなくなってしまった。先生から、「次は晩の10時の飛行機」と聞いて、びっくりしてしまった。結局その日は何もできず、ホテルにとまっただけだった。2日目に、動物園に行った。日本では見られない本場の孔雀と、動物を見た。夜に電車の中で、友達とトランプや枕投げをした。

3日目は朝からハードスケジュールだった。市長表敬の時にとっても緊張した。他にも有名な所にもいろいろ行った。しかし、この旅行で一番楽しみなのは、ホームステイだった。ホストファミリーと会うまでは不安と思っていたけど、ホストファミリーの人達が優しかったので不安がなくなった。その日は黄君の誕生日だったので家に行くと黄君の友達が、出迎えてくれた。その晩は皆と一緒にケーキを食べて楽しんだ。4日目、八一中学校へ交流に行った。八一中学校の人は皆うまかった。太極拳も見れた。僕達の出し物もいい出来だった。昼から秋水広場に行った。噴水の水が当たって冷たかった。その晩もホームステイだった。しかし2日目なので、不安がなくなった。晩ご飯を食べた後、ホストファミリーと買い物に行った。その時、ホームステイしていた人達と一緒にゲームセンターでゲームをして楽しんだ。お土産もスーツケースに入らないぐらいもらった。5日目、ホストファミリーと別れて、飛行機に乗り、北京まで行った。万里の長城では最初「こんなんよゆう」と思っていたが、その思いとは裏腹に、とてもきつかった。下りた瞬間足が動かなくなった。故宮博物館でも、いろいろな物を見た。天安門広場では、故毛沢東主席の絵も見えた。その晩は皆でいろいろな事を話した。最終日、今まであった事を胸にしまい、飛行機に乗って大阪へと帰ってきました。飛行機の中でずっと、眠っていた。大阪に着いた時、「日本に帰って来た〜」というのを実感した。高松に着いたとき思わず、友達が涙を流しているのを見て、僕も、もらい泣きしてしまいました。6日間という短い時間だったけど、普段体験できないようなこともいろいろ学んだ。この体験を胸にこれからも頑張っていきたいです。使節団の皆、ホストファミリーの方々、お母さん、お父さんに感謝します。「謝謝！」



ホストファミリーと



ホームステイ先の子の友達

一 期 一 会



高松市立玉藻中学校
吉澤 福生

中国に行く実感がまだわからないまま発った初日。これからの5泊6日の旅がどうなるかなど予想もつかなかった。

1日目は関西空港でのトラブルがあり、飛行機が発ったのはなんと夜の10時!!もうその時点で3日分過ぎたような気分だった。でも、いざ中国の地を踏んだら興奮と驚きで疲れなど吹っ飛んだ。

2日目は上海動物園、上海博物館、豫園の見学、中国の文化や歴史を学び、また、高層ビルが建ち並ぶ上海の経済成長が身にしみた。そして私がこの旅行で楽しみにしていた夜行列車に乗った。中国の夜行列車は自分のなかでは想像のつきにくいものだった。いざ乗ってみると二段ベッドが両側にあるとても狭い部屋であった。そして、12時間乗った。中国がいかに広いか、体感した。

早朝、ついに高松市の友好都市南昌に到着した。これが3日目の始まりだ。

その日は市長表敬訪問、滕王閣見学、八大山人記念館、象湖の見学へ行った。上海とは違って自然あふれ、文化が尊重されている町だった。

そして私がこの旅行で最も不安だったホームステイの時がやってきた。このときに私の頭は真っ白だった。どのように話せばいいのか、ホストファミリーの人とは仲良くなれるかなどとさまざまな不安が一気にやってきた。しかし実際に会ってみるととても優しく心遣いちゃんとお母さんと安心した。片言の英語とジェスチャーで自分の伝えたいことを伝えたいけどなかなか上手には伝わらなかった。ホームステイ1日目はあまりいい出だしとはいかなかったけれど、優しい家族だったのでよかった。

4日目は八一中学校にての交流。私の班は2択クイズを行った。パネルを忘れたハプニングもあり成功するか心配になった。でもなんとかそれを乗り切りクイズを成功させることができた。中学校の人たちが喜んでくれたことはもっと嬉しかった。この交流会で中国の中学生の演技や歌、また私たち使節団の「一合まいた」「さくらさくら」「千の風になって」などの出し物をして文化交流ができ、さらに友好関係が深まったと感じた。昼食会では見慣れない南昌料理(すっぱいなど辛いもの)。私は中国にきて胃がもたれていたのでもあまり食べられなかったけれどこれが本場の料理なのかと実感した。その後、紅谷灘秋水広場見学、ショッピングをしてからホームステイ先へ行った。まず夜ご飯を食べに火鍋屋へ行った。火鍋とは日本でいう寄せ鍋みたいなものであっさりしていた。他にも火鍋には種類があるみたいだった。その後、道がこんでいたので歩いて家に帰ることにした。南昌の街は車も人も多かった。高松とは違う雰囲気とても楽しかった。家に帰ってから心遣いちゃんと2人で学校のことや日本のことを語り合った。英語力の少ない私には会話を成り立たせるのが精一杯で2人も辞書を引ながら会話をした。言葉や文化の違いがあっても2人の気持ちが通じあったからこそ楽しいホームステイができたのだと思った。

5日目、とうとうお別れの時が来た。またどこかで会えることを願いながら私たちは北京に発った。北京では故宮博物館、天安門広場、万里の長城などに行った。テレビや本でしか見たことがなかった万里の長城を見てとても驚いた。急な階段がどこまでも続いているのを見た時、これが約二千キロも続いているかと思うとただ驚くばかり、そしてその壮大なスケールに言葉もでなかった。また故宮博物館や天安門広場も同様に中国の長い歴史と素晴らしい文化に感動した。

そして長かった旅の最終日。さまざまな出会い、別れがあり、そして中国の素晴らしい文化や歴史を学んだ。この6日間、私にとってかけがえのない宝物だ。

最後に、山下団長先生がお話ししてくださった「一期一会」という言葉。この旅行を通して出会えた人たちのことは一生忘れない。



心怡ちゃんと



万里の長城にて

